

クリーンテック株式&グリーンボンド・ファンド (愛称:みらいEarth)

追加型投信/内外/資産複合

基準日: 2026年4月30日

「資産成長型」の運用状況

信託期間: 2020年2月18日 から 2050年5月11日 まで

決算日: 毎年5月11日および11月11日 (休業日の場合翌営業日)

回次コード: 3410

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

「基準価額・純資産の推移」

2026年4月30日現在

基準価額	16,292 円
純資産総額	60億円

期間別騰落率

期間	ファンド
1か月間	+8.7 %
3か月間	+5.8 %
6か月間	+5.4 %
1年間	+22.9 %
3年間	+38.3 %
5年間	+33.1 %
10年間	-----
設定来	+62.9 %



※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。
 ※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用(信託報酬)は控除しています(後述のファンドの費用をご覧ください)。
 ※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間とし、当該ファンドの「分配金再投資基準価額」を用いた騰落率を表しています。
 ※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

「分配の推移」

(1万口当たり、税引前)

決算期(年/月)	分配金
第1期 (20/05)	0円
第2期 (20/11)	0円
第3期 (21/05)	0円
第4期 (21/11)	0円
第5期 (22/05)	0円
第6期 (22/11)	0円
第7期 (23/05)	0円
第8期 (23/11)	0円
第9期 (24/05)	0円
第10期 (24/11)	0円
第11期 (25/05)	0円
第12期 (25/11)	0円

分配金合計額 設定来: 0円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和アセットマネジメントにより作成されたものです。当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって投資元本が保証されているものではありません。当ファンドの取得をご希望の場合には投資信託説明書(交付目論見書)を販売会社よりお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上ご自身でご判断ください。後述の当資料のお取り扱いにおけるご注意をよくお読みください。

「主要な資産の状況」

※比率は、純資産総額に対するものです。

組入ファンド		合計99.5%
運用会社名	ファンド名	比率
BNPパリバ・アセットマネジメント	BNPパリバ・クリーンテック関連株式ファンド(為替ヘッジなし)*	51.1%
BNPパリバ・アセットマネジメント	BNPパリバ・グリーンボンド・ファンド(為替ヘッジなし)*	48.4%

*ファンド名は略称です。ファンドの詳細については、「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

設定・運用:

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

商号等

大和アセットマネジメント株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号
 一般社団法人資産運用業協会

加入協会

一般社団法人第二種金融商品取引業協会

「予想分配金提示型」の運用状況

信託期間 : 2020年2月18日 から 2050年5月11日 まで

決算日 : 毎年5月11日および11月11日 (休業日の場合翌営業日)

回次コード : 3411

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

≪基準価額・純資産の推移≫

2026年4月30日現在

基準価額	12,135 円
純資産総額	31億円

期間別騰落率

期間	ファンド
1カ月間	+8.7 %
3カ月間	+5.8 %
6カ月間	+5.2 %
1年間	+22.6 %
3年間	+37.7 %
5年間	+33.0 %
10年間	----
設定来	+63.0 %



※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。
 ※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用(信託報酬)は控除しています(後述のファンドの費用をご覧ください)。
 ※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間とし、当該ファンドの「分配金再投資基準価額」を用いた騰落率を表しています。
 ※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

≪分配の推移≫

(1万口当たり、税引前)

決算期(年/月)	分配金
第1期 (20/05)	0円
第2期 (20/11)	350円
第3期 (21/05)	400円
第4期 (21/11)	450円
第5期 (22/05)	0円
第6期 (22/11)	300円
第7期 (23/05)	0円
第8期 (23/11)	300円
第9期 (24/05)	450円
第10期 (24/11)	400円
第11期 (25/05)	300円
第12期 (25/11)	400円

分配金合計額 設定来 : 3,350円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

≪主要な資産の状況≫

※比率は、純資産総額に対するものです。

組入ファンド		合計99.0%
運用会社名	ファンド名	比率
BNPパリバ・アセットマネジメント	BNPパリバ・クリーンテック関連株式ファンド(為替ヘッジなし)*	51.1%
BNPパリバ・アセットマネジメント	BNPパリバ・グリーンボンド・ファンド(為替ヘッジなし)*	48.0%

*ファンド名は略称です。ファンドの詳細については、「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

《BNPパリバ・クリーンテック関連株式マザーファンドの運用状況》

※比率は、マザーファンドの純資産総額に対するものです。

※BNPパリバ・アセットマネジメントが提供するデータ等を基に大和アセットマネジメントが作成したものです。

資産別構成		
資産	銘柄数	比率
外国株式	37	93.0%
国内株式	2	4.7%
短期資産等		2.3%
合計	39	100.0%

株式 規模別構成		合計97.7%
規模		比率
大型株		95.9%
中小型株		1.8%

※大型株：時価総額100億米ドル超、中小型株：時価総額100億米ドル以下。

株式 業種別構成		合計97.7%
業種名		比率
情報技術		41.9%
資本財・サービス		37.4%
素材		7.0%
公益事業		6.9%
金融		2.5%
ヘルスケア		2.1%

株式 通貨別構成		合計97.7%
通貨名		比率
米ドル		69.1%
ユーロ		16.8%
日本円		4.7%
オフショア人民元		3.0%
英ポンド		2.2%
デンマーク・クローネ		1.9%

株式 国・地域別構成		合計97.7%
国・地域名		比率
アメリカ		50.0%
ドイツ		11.0%
アイルランド		9.3%
日本		4.7%
カナダ		4.2%
台湾		4.1%
イギリス		3.7%
フランス		3.2%
中国		3.0%
その他		4.4%

組入上位10銘柄				合計35.7%
銘柄名	国・地域名	業種名		比率
TSMC	台湾	情報技術		4.1%
モノリシック・パワー・システムズ	アメリカ	情報技術		4.0%
インフィニオンテクノロジーズ	ドイツ	情報技術		3.9%
マイクロソフト	アメリカ	情報技術		3.6%
クアンタ・サービシズ	アメリカ	資本財・サービス		3.6%
エヌビディア	アメリカ	情報技術		3.4%
リンデ	アイルランド	素材		3.3%
イートン	アイルランド	資本財・サービス		3.2%
シュナイダーエレクトリック	フランス	資本財・サービス		3.2%
ブロードコム	アメリカ	情報技術		3.2%

※上記データは、四捨五入の関係で合計の数値と一致しない場合があります。
 ※業種名は、原則としてS&PとMSCI Inc.が共同で作成した世界産業分類基準(GICS)によるものです。

※個別企業の推奨を目的とするものではありません。

《BNPパリバ・グリーンボンド・マザーファンドの運用状況》

※比率は、マザーファンドの純資産総額に対するものです。

※BNPパリバ・アセットマネジメントが提供するデータ等を基に大和アセットマネジメントが作成したものです。

資産別構成		
資産	銘柄数	比率
外国債券	134	97.6%
国内債券	---	---
短期資産等		2.4%
合計	134	100.0%

債券 格付別構成		合計97.6%
格付別		比率
AAA		13.8%
AA		10.3%
A		35.3%
BBB		38.3%

債券 種別構成		合計97.6%
種別		比率
国債		14.7%
準国債		14.9%
国際機関債		5.7%
普通社債		62.3%

債券 通貨別構成		合計97.6%
通貨名		比率
ユーロ		69.2%
米ドル		15.3%
英ポンド		7.3%
豪ドル		2.7%
カナダ・ドル		1.5%
シンガポール・ドル		0.6%
スウェーデン・クローネ		0.6%
ニュージーランド・ドル		0.4%

債券 国・地域別構成		合計97.6%
国・地域名		比率
フランス		17.6%
イタリア		11.0%
ドイツ		10.4%
アメリカ		8.4%
スペイン		7.7%
国際機関		5.7%
イギリス		5.1%
オランダ		4.3%
チリ		3.5%
その他		23.9%

債券 ポートフォリオ特性値	
	比率
直接利回り(%)	2.8
最終利回り(%)	3.9
修正デュレーション	6.6
残存年数	8.3

組入上位10銘柄			合計17.4%
発行体名	種別	利率(%)	比率
ドイツ復興金融公庫	準国債	4.875	2.5%
スペイン王国	国債	1	2.4%
ドイツ連邦共和国	国債	1.8	2.1%
イタリア共和国	国債	4	2.0%
欧州連合	国際機関債	1.25	1.6%
ノルウェー地方金融公社	準国債	5.25	1.4%
イタリア共和国	国債	1.5	1.4%
EDPファイナンス	普通社債	1.71	1.4%
欧州投資銀行	国際機関債	0.01	1.3%
フランス共和国	国債	1.75	1.3%

※上記データは、四捨五入の関係で合計の数値と一致しない場合があります。

※格付別構成については、所定の基準で採用した格付けを基準に算出しています。

※種別構成は、BNPパリバ・アセットマネジメントの分類によるものです。

※債券 ポートフォリオ特性値は、ファンドの組入債券等の各特性値(直接利回り、最終利回り等)を、その組入比率で加重平均したものです。

※以下のコメントは、BNPパリバ・アセットマネジメントが提供するコメントを基に大和アセットマネジメントが作成したものです。

【投資環境】

(株式部分)

戦争終結期待で欧米株は上昇

欧米株は上昇しました。トランプ米大統領が「2~3週間以内にイランから撤退する」と表明したことや、米国とイランの2週間の停戦合意を好感し、月半ばにかけて堅調に推移しました。その後も、米・イランの恒久的な停戦合意への期待やAI（人工知能）・半導体関連株が相場を主導する展開となり、米国株は堅調に推移しました。一方、欧州株は、中東情勢の緊迫化を受けた原油高を背景に、利上げ観測が重しとなり、上昇幅を縮小しました。

(債券部分)

グリーンボンド市場は上昇

海外債券市場では、金利はおおむね上昇しました。米国では、中東情勢の沈静化期待で月上旬に金利が低下する場面もありましたが、米国とイランの交渉に目立った進展が見られず、ホルムズ海峡の封鎖が長期化するとの懸念から原油価格が上昇し、インフレ圧力の高まりを意識した動きの中で、月末にかけて金利は上昇しました。その他の国についても、おおむね米国に連れる動きとなりました。

このような中、グリーンボンド市場の代表的指数であるICE BofA グリーンボンド指数は、総じて国債金利の上昇幅を上回るスプレッド縮小となったことから、プラスのトータルリターンとなりました（現地通貨ベース）。

為替相場は、米ドル円・ユーロ円ともに上昇

為替市場は、米ドルとユーロはともに対円で上昇しました。地政学リスクの高まりに伴う原油価格の高止まりなどを背景に、日本の貿易収支悪化への懸念などが円安圧力となり、米ドルは対円で上昇しました。また、ユーロは、欧州の物価指標が上振れしたことを受け、インフレ圧力の高まりからECB（欧州中央銀行）の利上げが意識されたことも、対円での上昇要因となりました。

※個別企業の推奨を目的とするものではありません。

【ファンドの運用状況】

月間の動き

当月は、欧米の保有株式や保有債券の価格が上昇したこと、外国為替市場でユーロなどが対円で上昇したことがプラスに寄与したことから、基準価額は前月末比で上昇しました。

（株式部分）

地球温暖化対策では、クアンタ・サービシーズなどがプラス寄与となりました。同社は、良好な業績、過去最高の受注残高を発表するとともに、今後の業績見通しにおいて送電網の近代化と地球温暖化対策への継続的な需要拡大が示されたことなどを背景に、株価が上昇しました。

革新的な技術基盤では、インフィニオンテクノロジーズなどがプラス寄与となりました。自動車や産業用半導体の需要見通しが改善したことから、株価が上昇しました。

廃棄物処理・資源有効利用では、リパブリック・サービシーズなどがマイナスに寄与しました。同社はディフェンシブな特性を持っており、投資家のリスク選好が高まる局面で、他の銘柄に出遅れる形となりました。

（債券部分）

債券部分では、欧米の保有債券価格の上昇やユーロなどが対円で上昇したことがプラスに寄与しました。

運用のポイント

（株式部分）

株式部分では、地球温暖化対策、環境汚染防止、廃棄物処理・資源有効利用、持続可能な食糧供給、革新的な技術基盤などのテーマに着目して、これらの分野で優れた技術を有し、その技術を事業化している企業に投資を行います。

地域別では、米国が最も多く、次いでドイツ、アイルランドなどに投資しています。

引き続きテーマ別では、地球温暖化対策では米国の再生可能エネルギー大手のネクステラ・エナジー、環境汚染防止では水技術ソリューションを提供するザイレム、廃棄物処理・資源有効利用ではカナダの廃棄物処理業者GFLエンバイロメンタル、革新的な技術基盤では米国の半導体企業エヌビディアなどの企業に投資しています。

当月は、銘柄の入れ替えは行いませんでした。

（債券部分）

債券部分では、グリーンボンド、すなわち二酸化炭素の排出量削減や再生可能エネルギー発電能力の増強など、環境にやさしいプロジェクト向けの資金調達を目的として発行された公社債に投資を行います。

通貨別ではユーロ建てが最も多く、次いで米ドル建て、残りは、英ポンド建て、豪ドル建て、カナダ・ドル建てなどに投資しています。債券種別配分では引き続き社債を多めの保有としています。

地域別では、ユーロ圏のソブリン債に関しては、ファンダメンタルズが盤石であることからスペインなどを引き続き市場平均よりも多めの保有としています。新興国についてはリスク分散が図られることや、欧州のソブリン債と比較して高い利回りが得られることから、引き続きチリやインドネシアなどを中心に配分しています。グリーンボンドの資金使途では、再生可能エネルギーのプロジェクトが主たる融資先となっています。

【今後の見通し・運用方針】

今後の見通し

(株式部分)

世界のマクロ経済環境は不安定な状況にあります。地球環境問題に解決策を提供する企業の見通しは良好です。エネルギー転換に対する政策の後押しは一段と強まっており、主要国の大半で重要な脱炭素計画が策定されています。

欧州は、2030年までに「温室効果ガス55%削減目標」を掲げ、主導的な立場にあります。中国は2030年までに二酸化炭素排出量をピークアウトし、2060年までにネットゼロを実現する目標を策定しました。米国においては、トランプ氏の大統領就任により将来の気候変動政策に関する不透明性が高まりましたが、国内の製造業やデータセンター向けのエネルギー需要の増加が、再生可能エネルギー分野に追い風となると考えています。

環境に対する世界各国の目標達成には、地球温暖化対策として「再生可能エネルギー・送電網」と「エネルギー効率」の両分野での大規模な投資が必要です。その他、製品のリサイクルや再利用、持続可能な農業手法、資源のより良い管理を促進する「廃棄物処理・資源有効利用」への取り組みなども課題として挙げられます。これらに対する企業の取り組みは、増加する人口のニーズを満たしながら環境被害を軽減するのに役立っています。そして、環境対策の課題への取り組みには、「ハードウェア」と「ソフトウェア」の両面での革新的な技術基盤が不可欠です。具体的には、ハードウェアとしては電気自動車や再生可能エネルギー機器に使用される先進半導体などが挙げられます。またソフトウェアとしては、環境への負荷が小さな製品を設計するプログラムが挙げられます。

金利の先行き不透明感や政策インセンティブの低下は、再生可能エネルギー機器や電気自動車といった分野の業績に影響を与える可能性があります。クリーン・エコノミーのバリューチェーン全体に視野を広げれば、多くの魅力的な投資機会があると考えています。

引き続きこれらのクリーンテック関連企業に投資することにより、地球環境を守るための政策の後押しや人々の行動の変化を背景に長期的な成長が期待できると考えています。

(債券部分)

米国とイランは紛争終結に向けた対話を行っていますが、短期的には両国間の具体的な交渉内容やホルムズ海峡の封鎖解除の時期が不透明であることから、金利上昇圧力が継続するものとみられます。また主要中央銀行は、原油高がインフレをもたらすことを警戒しています。この先、紛争終結に向けた交渉に何らかの進展が見られれば、中央銀行のインフレへの懸念が和らぎ、利上げ観測が後退すると思われれます。

国債市場と比較して、クレジット市場には中東情勢等の影響や、プライベート・クレジット市場への懸念などのリスク要因が十分に織り込まれていない可能性があります。しかしながら、足元の企業の業績発表からも明らかなように、ファンダメンタルズは依然堅調であり、旺盛な投資需要が続いています。

引き続き、優良なグリーンボンドへの投資を通じて安定したリターンを獲得することを目指します。

今後の運用方針

当ファンドは、生活の質を高めながら経済発展することを重視して、環境への取り組みを支える企業や政府に着目します。こうした企業や政府が発行する株式や債券への投資を通じて、環境関連株式投資によって得られる成長性とグリーンボンド投資によって得られる安定性を組み合わせ、長期的に優れたリターンの獲得を目指します。

※個別企業の推奨を目的とするものではありません。

◆各ファンドの略称としてそれぞれ次を用いることがあります。
 クリーンテック株式&グリーンボンド・ファンド(資産成長型)(愛称:みらいEarth成長型): 資産成長型
 クリーンテック株式&グリーンボンド・ファンド(予想分配金提示型)(愛称:みらいEarth分配型): 予想分配金提示型
 ◆各ファンドの総称を「クリーンテック株式&グリーンボンド・ファンド(愛称:みらいEarth)」とします。

<p>TSMC (台湾/情報技術)</p>	<p>TSMCは世界有数の半導体メーカーです。モバイルデバイスや車載エレクトロニクス、IoTなどといった様々な分野で同社の製造する半導体が利用されています。製造過程において温室効果ガス排出の削減を目指し、再生可能エネルギーの活用などを行っています。</p>
<p>モロニック・パワー・システムズ (アメリカ/情報技術)</p>	<p>米国の電力ソリューション会社。ストレージコンピューティング、企業データ、自動車、工業、通信、消費者市場向けの半導体ベースの電力エレクトロニクスソリューションの設計・開発・マーケティング・販売を行っています。</p>
<p>インフィニオンテクノロジーズ (ドイツ/情報技術)</p>	<p>インフィニオンテクノロジーズは自動車メーカーをはじめとする各種産業向けに半導体を提供する多国籍企業です。電力の制御を行う、高い省エネ効果のあるパワー半導体において世界トップクラスの市場シェアを有しています。</p>
<p>マイクロソフト (アメリカ/情報技術)</p>	<p>米国のソフトウェア大手。ソフトウェアの開発、製造、ライセンス供与、サポート事業を展開しています。生産性向上やAIソリューションの分野で多様な製品を提供し、企業のESG課題解決に貢献しています。</p>
<p>クアンタ・サービシーズ (アメリカ/資本財・サービス)</p>	<p>クアンタ・サービシーズは北米やオーストラリア等で事業を展開するエンジニアリング会社。電力インフラや再生可能エネルギーインフラ、輸送管理や照明システムの導入などを行っています。</p>
<p>エヌビディア (アメリカ/情報技術)</p>	<p>米国の半導体メーカー。コンピュータのグラフィックス処理や演算処理の高速化を主な目的とするグラフィック・プロセッシング・ユニット(GPU)などのビジュアルコンピューティング技術を提供しています。</p>
<p>リンデ (アイルランド/素材)</p>	<p>産業用ガス及びエンジニアリング事業を展開する大手企業。産業用ガス生成装置の設計や構築を行い、各種プラントのガス生産処理サービスを提供しています。エネルギー移行に向けたクリーン水素および二酸化炭素回収・貯留システムなどのソリューションも手掛けています。</p>
<p>イトン (アイルランド/資本財・サービス)</p>	<p>イトンは世界的な電力管理会社。アクチュエータ、クラッチ、ブレーキ、流体コネクタ、産業用制御器、センサー、モーター、発電機、ポンプ、バルブ、エンジン、トランスミッションシステムなどを提供する。世界各地の工業、自動車、建設、商業、航空宇宙などの市場向けに事業を展開。</p>
<p>シュナイダーエレクトリック (フランス/資本財・サービス)</p>	<p>シュナイダーエレクトリックは電力設備メーカーです。主な製品は、自動車用充電設備、住宅用セキュリティ用品、照明スイッチなどを扱っています。電気自動車(EV)の普及に欠かすことのできない充電ソリューションを提供しています。</p>
<p>ブロードコム (アメリカ/情報技術)</p>	<p>米国の半導体・インフラソフトウェアソリューションメーカー。半導体、エンタープライズソフトウェア及びセキュリティソリューションの設計・開発・供給を行うグローバルな技術企業です。半導体ソリューション及びインフラソフトウェアの2つのセグメントを通じて事業を展開しています。</p>

※業種名は、原則としてS&PとMSCI Inc.が共同で作成した世界産業分類基準(GICS)の産業グループによるものです。

※個別企業の推奨を目的とするものではありません。

発行体 (種別)	主な調達資金使途(プロジェクト)											
	エネルギー 供給	インフラの 拡充	基礎インフラ 整備	生態系 多様性	エネルギー 効率	食の保全	グリーン ビルディング	再生可能 エネルギー	クリーン 輸送	廃棄物処理	水資源	土地活用
ドイツ復興金融公庫 (準国債)							○	○				
スペイン王国 (国債)								○				
ドイツ連邦共和国 (国債)			○	○	○			○	○			
イタリア共和国 (国債)				○			○	○	○	○	○	
欧州連合 (国際機関債)				○	○		○	○	○	○	○	○
ノルウェー地方金融公社 (準国債)		○			○		○	○	○	○	○	
イタリア共和国 (国債)				○			○	○	○	○	○	
EDPファイナンス (普通社債)								○				
欧州投資銀行 (国際機関債)					○		○	○				
フランス共和国 (国債)		○		○			○	○	○			

《ファンドの目的・特色》

ファンドの目的

- ・日本を含む世界のクリーンテック関連企業の株式およびグリーンボンドに投資し、信託財産の成長をめざします。

ファンドの特色

- ・日本を含む世界のクリーンテック関連企業の株式およびグリーンボンドに投資します。
- ・運用は、BNP パリバ・アセットマネジメントが担当します。
- ・分配方針の異なる 2 つのファンドがあります。

《投資リスク》

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、**投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。**基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

価格変動リスク・信用リスク 株価の変動	組入資産の価格が下落した場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。 株価は、政治・経済情勢、発行企業の業績、市場の需給等を反映して変動します。発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。 当ファンドは、特定の業種への投資比率が高くなるため、市場動向にかかわらず基準価額の変動が大きくなる可能性があります。 新興国の証券市場は、先進国の証券市場に比べ、一般に市場規模や取引量が小さく、流動性が低いことにより本来想定される投資価値とは乖離した価格水準で取引される場合もあるなど、価格の変動性が大きくなる傾向が考えられます。
価格変動リスク・信用リスク 公社債の価格変動	組入資産の価格が下落した場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。 公社債の価格は、一般に金利が低下した場合には上昇し、金利が上昇した場合には下落します。また、公社債の価格は、発行体の信用状況によっても変動します。特に、発行体が債務不履行を発生させた場合、またはその可能性が予想される場合には、公社債の価格は下落します。 新興国の公社債は、先進国の公社債と比較して価格変動が大きく、債務不履行が生じるリスクがより高いものになると考えられます。
為替変動リスク	外貨建資産については、資産自体の価格変動のほか、当該外貨の円に対する為替レートの変動の影響を受けます。組入外貨建資産について、当該外貨の為替レートが円高方向に進んだ場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。 特に、新興国の為替レートは短期間に大幅に変動することがあり、先進国と比較して、相対的に高い為替変動リスクがあります。
カントリー・リスク	投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化等により市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合には、基準価額が予想外に下落したり、方針に沿った運用が困難となる場合があります。 新興国への投資には、先進国と比べて大きなカントリー・リスクが伴います。
その他	解約資金を手当てするため組入証券を売却する際、市場規模や市場動向によっては市場実勢を押下げ、当初期待される価格で売却できないこともあります。この場合、基準価額が下落する要因となります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第 37 条の 6 の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受け付けが中止となる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。

《ファンドの費用》

投資者が直接的に負担する費用

	料 率 等	費 用 の 内 容
購入時手数料	販売会社が別に定める率 〈上限〉 <u>2.2%(税抜2.0%)</u>	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信託財産留保額	ありません。	—

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

	料 率 等	費 用 の 内 容
運用管理費用 (信託報酬)	年率1.144% (税抜1.04%)	運用管理費用の総額は、日々の信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。運用管理費用は、毎日計上され日々の基準価額に反映されます。
配 分 (税 抜) (注 1)	委託会社	年率0.32%
	販売会社	年率0.70%
	受託会社	年率0.02%
投資対象とする 投資信託証券 (目論見書作成時点)	年率0.4631%(税抜0.421%) ～0.5731%(税抜0.521%)	投資対象ファンドにおける運用管理費用等です。
実質的に負担する 運用管理費用 (目論見書作成時点)	<u>年率1.6621%(税込)程度</u>	
その他の費用・ 手数料	(注2)	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

(注1)「運用管理費用の配分」には、別途消費税率を乗じた額がかかります。

(注2)「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合わせ下さい。

※運用管理費用の信託財産からの支払いは、毎計算期末または信託終了時に行なわれます。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

購入単位	最低単位を 1 円単位または 1 口単位として販売会社が定める単位
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額（1 万円当たり）
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払い下さい。
換金単位	最低単位を 1 口単位として販売会社が定める単位
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額（1 万円当たり）
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して 6 営業日目からお支払いします。
申込受付中止日	① ニューヨーク証券取引所、ロンドン証券取引所、ニューヨークの銀行またはロンドンの銀行の休業日 ② ①のほか、一部解約金の支払い等に支障を来すおそれがあるとして委託会社が定める日 （注）申込受付中止日は、販売会社または委託会社にお問合わせ下さい。
申込締切時間	原則として、午後 3 時 30 分まで（販売会社所定の事務手続きが完了したもの） なお、販売会社によっては異なる場合がありますので、くわしくは販売会社にお問合わせ下さい。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行なうために大口の換金申込みには制限があります。
購入・換金申込受付 の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情が発生した場合には、購入、換金の申込みの受け付けを中止すること、すでに受け付けた購入、換金の申込みを取消すことがあります。
繰上償還	◎ 主要投資対象とする証券投資信託のいずれかが存続しないこととなる場合には、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了（繰上償還）させます。 ◎ 次のいずれかの場合には、委託会社は、事前に受益者の意向を確認し、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、繰上償還できます。 ・受益権の口数が 30 億口を下ることとなった場合 ・信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき ・やむを得ない事情が発生したとき
収益分配	年 2 回、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。 （注）当ファンドには、「分配金再投資コース」と「分配金支払いコース」があります。 なお、お取扱い可能なコースおよびコース名については異なる場合がありますので、販売会社にお問合わせ下さい。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。配当控除、益金不算入制度の適用はありません。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に NISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。 当ファンドは、NISA の「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。くわしくは、販売会社にお問合わせ下さい。 ※税法が改正された場合等には変更される場合があります。

《当資料のお取り扱いにおけるご注意》

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和アセットマネジメントにより作成されたものです。
- 当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認くださいのうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者のみなさまの実質的な投資成果を示すものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。
- 同じ銘柄名が複数表示される場合、同一銘柄名であっても市場や通貨等が異なる場合があります。また、銘柄名称が長い場合、名称の一部が表記されない場合があります。
- 分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

販売会社等についてのお問い合わせ

▶ **大和アセットマネジメント** フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00~17:00)

当社ホームページ

▶ <https://www.daiwa-am.co.jp/>

クリーンテック株式&グリーンボンド・ファンド（資産成長型）（愛称：みらいEarth成長型）

販売会社名（業態別、50音順） （金融商品取引業者名）		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 資産運用業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商 品取引業協会
大垣西濃信用金庫	登録金融機関	東海財務局長(登金)第29号				
沖縄県労働金庫	登録金融機関	沖縄総合事務局長(登金)第8号				
九州労働金庫	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第39号				
京都中央信用金庫	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第53号	○			
近畿労働金庫	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第90号				
埼玉縣信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第202号	○			
株式会社埼玉りそな銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第593号	○		○	
四国労働金庫	登録金融機関	四国財務局長(登金)第26号				
静岡県労働金庫	登録金融機関	東海財務局長(登金)第72号				
しののめ信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第232号				
株式会社十六銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第7号	○		○	
城北信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第147号	○			
瀧野川信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第168号				
多摩信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第169号	○			
中央労働金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第259号				
中国労働金庫	登録金融機関	中国財務局長(登金)第53号				
東海労働金庫	登録金融機関	東海財務局長(登金)第70号				
東北労働金庫	登録金融機関	東北財務局長(登金)第68号				
長岡信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第248号				
長野信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第256号	○			
長野県労働金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第268号				
新潟県労働金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第267号				
西尾信用金庫	登録金融機関	東海財務局長(登金)第58号	○			
飯能信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第203号				
平塚信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第196号				
福井信用金庫	登録金融機関	北陸財務局長(登金)第32号				
北陸労働金庫	登録金融機関	北陸財務局長(登金)第36号				
北海道労働金庫	登録金融機関	北海道財務局長(登金)第38号				
株式会社りそな銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第3号	○	○	○	
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第67号	○	○		
岡安証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第8号	○			

クリーンテック株式&グリーンボンド・ファンド（予想分配金提示型）（愛称：みらいEarth分配型）

販売会社名（業態別、50音順） （金融商品取引業者名）		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 資産運用業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商 品取引業協会
株式会社埼玉りそな銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第593号	○		○	
株式会社りそな銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第3号	○	○	○	
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第67号	○	○		
西村証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第26号	○			

上記の販売会社は今後変更となる場合があります。また、販売会社によって、新規のご購入の取扱いを行っていない場合や、お申込み方法・条件等が異なります。くわしくは、販売会社にお問合わせ下さい。